



信長、秀吉、秀次らの古文書まとめて発見

いずれも知られていない新出資料

神戸大学広報室
078-803-5083

神戸大学大学院人文学研究科地域連携センターに神戸市民から預けられた織田信長黒印状、豊臣秀吉朱印状、豊臣秀次朱印状などが印章や文書の様式などからいずれも真正なものと分かりました。徳川家康書状写もありました。織豊期の古文書に詳しい大阪城天守閣や藤井譲治・京都大学名誉教授にも鑑定を依頼し、真正と確認頂いています。文書を包んでいた包紙（ほうし）の裏に書かれていた由緒から、三田藩主の九鬼家一族である九鬼凶書（ずしょ）家に伝来したものと考えられます。どの文書もこれまで知られていなかった新出資料。一般市民の家から信長、秀吉の新出原文書がまとめて発見されることは極めて珍しいことです。

織田信長の黒印状は九鬼嘉隆から革衣と立付（袴の一種）を送られたことへの礼状。豊臣秀吉の朱印状は九鬼成隆にあてたもので、かたびら三着を与えるというもの。朝鮮出兵時の文禄2年（1593年）のものと比定されます。豊臣秀次の朱印状は九鬼氏が敵船二艘を乗っ取った戦功を賞した物と、九鬼氏から鯨を送ってもらったことへの礼状。徳川家康の書状写は、家康が池田輝政、池田長吉、九鬼守隆にあてたもの。「そちらの様子を承りたく、村越茂助（家康の家来）をもってその旨お伝えします。（私の）出馬については油断なく進めていますのでご安心ください」という内容で、家康自身の出馬についても書かれていることから、関ヶ原の合戦のときのものである可能性があります。

以上の新発見について以下の日程で記者会見を開きます。

日時 12月8日（月）14:00～

場所 神戸大学大学院人文学研究科A棟3階コモンルーム

出席者 奥村弘・人文学研究科教授 地域連携推進室長
村井良介・地域連携推進室学術研究員

※ 記者会見後、同フロアにある古文書室で今回発表の古文書を見て頂きます。

記事解禁は8日の記者会見の後です。宜しくお願いします。